# コースデザイン

①コースの流れ

▼

②テーマとコミュニケーション行動の抽出

▼

③教材・ツール・モデルの検討

▼

④第１回

▼

⑤テーマ決定

▼

⑥成果報告会の検討

▼

⑦第9回(成果報告会の準備)

成果報告会の準備をします。

▼

⑧第１０回(成果報告会)

成果を報告する回です。

## ① コースの流れ

教室の新規開設、継続が決まったら「コースデザイン」を行います。ここで言う「コースデザイン」とは、誰がいつどのようにテーマを決定するか、決定したテーマではどのようなコミュニケーション行動を行うか、そして、成果報告会の形式と内容を誰がいつどのように決定するかを指します。システムが運営支援するコースは原則として1回1時間半の教室活動を 10 回で1コースとします。

10回分のテーマと成果報告会の形式は、プログラム・コーディネーター、学習者、日本語パートナーの皆が主体的に決定することが理想です。

ですが、新規の学習者や日本語パートナーは具体的な教室活動や成果報告会のイメージを持っていません。そのような場合には、第1回から第8回までのテーマや成果報告会の形式や内容をあらかじめプログラム・コーディネーターが決定し、そのテーマに沿ってコースを進める場合もあります。

【プログラム・コーディネーターがあらかじめテーマや成果報告会の形式・内容を決定する場合】

第1回　　教室の説明と自己紹介の活動
第2～8回　プログラム・コーディネーターが決定したテーマに沿った教室活動
第9回　　成果報告会準備
第 10 回　　成果報告会

【前半のテーマをプログラム・コーディネーターが決定し、コースの途中でテーマ決定や成果報告会の検討の時間をとる場合 】

第1回　　教室の説明と自己紹介の活動
第2～4回　プログラム・コーディネーターが決定したテーマに沿った教室活動
第3回終了時　5～8回までのテーマ決定
第5～8回　　第3回で決定したテーマに沿った教室活動
第9回　　成果報告会準備
第 10 回　　成果報告会

10 回のコースをどのようにデザインするかは、学習者や日本語パートナーを含む教室の状況、教室関係者を含む学習環境の状況を考慮し、フォローアップまで見据えた上で検討します。（フォローアップについては「10. 教室の継続的改善に向けて」の「フォローアップ」で解説します。）

この作業は教室を担当するプログラム・コーディネーター会議で行います。

表1 コースデザイン例

| 回 | テーマ | コミュニケーション行動 |
|---|---|---|
| 1 | 自己紹介 | 写真や絵を見せながら、初対面の相手に名前・国・出身地・職場・住まいなど簡単な自己紹介をする |
| 2 | 経歴 | 今までに、いつ、どこで、どんな仕事や勉強をしたことがあるかを相手に話す |
| 3 | 日々の生活 | この1週間でどんなことをしたか、おもしろかったことは何かを話すことができる |
| 4 | 旅行 | 絵や写真を使ってどこにいつ行って何をしたのかなど旅行の思い出を相手に紹介する |
| 5 | 趣味 | 趣味は何か、どんなことをするのが好きか、よく何をするのかを話す |
| 6 | 病気・病院 | 自分や家族が今までにかかった病気やけが、その対応について話す |
| 7 | 休日 | 休みの日には、どこに行って何をするかを話す |
| 8 | 買い物 | この1週間で何をどこで買ったか、それはいくらだったかを説明する |
| 9 | 成果報告会の準備 | |
| 10 | 成果報告会<br>1回~8回で書いたもの、読んだものの中から報告したいことを文章にまとめ、紹介する。 | |

## ② テーマとコミュニケーション行動の抽出

前項の表1のように、システムが運営支援する教室では「テーマ」と「コミュニケーション行動」から1回の教室活動をデザインします。

「コミュニケーション行動」というのは「社会の具体的な状況において目的を持って行われる行動」を指します。「教室で初めて会った日本語パートナーと日本語で、名前、出身地を紹介する」、「休みの日には、どこに行って何をするかを話す」などがその一例です。これまで検討された「テーマ」と「コミュニケーション行動」は、過去に教室活動で選ばれたものや CEFR、国際交流基金の JF スタンダードなどを参考にしました。

例えば、JF スタンダードでは、15 のテーマとそれに関連するキーワードが表2のように記述されています。

表2 テーマとキーワード

| | テーマ | トピックのキーワード |
|---|---|---|
| 1 | 自分と家族 | 自分や家族に関すること（家族構成、身体的特徴など） |
| 2 | 住まいと住環境 | 住居や居住地域に関すること（部屋、家具、周辺施設など） |
| 3 | 自由時間と娯楽 | 余暇や趣味に関すること（スポーツ、映画、音楽など） |

| | | |
|---|---|---|
| 4 | 生活と人生 | 日常生活やライフステージに関すること（日課、入学、結婚、子育てなど） |
| 5 | 仕事と職業 | 仕事と職業に関すること（企業、職種、職務など） |
| 6 | 旅行と交通 | 旅行と交通に関すること（旅程、公共交通機関、観光など） |
| 7 | 健康 | 身体や健康に関すること（病気、通院、生活習慣など） |
| 8 | 買い物 | 買い物に関すること（店、支払いなど） |
| 9 | 食生活 | 食生活に関すること（飲食、レストラン、料理など） |
| 10 | 自然と環境 | 自然や環境に関すること（天候、季節、環境問題など） |
| 11 | 人との関係 | 人づきあいに関すること（交際、トラブル、マナーなど） |
| 12 | 学校と教育 | 教育機関や教育に関すること（学校、学習環境、教材など） |
| 13 | 言語と文化 | 言語や文化に関すること（外国語、冠婚葬祭、伝統文化、ポップカルチャー、異文化体験など） |
| 14 | 社会 | 社会に関すること（政治、産業、経済、国際関係など） |
| 15 | 科学技術 | 科学技術に関すること（最新テクノロジー、サイエンス、メディアなど） |

## ③ 教材・ツール・モデルの検討

テーマとコミュニケーション行動が決定したら、そのテーマを取り上げる回で具体的にどのような教材やツールを使い、どのようにモデルを行うかを検討します。

ここでは教室活動で使用する教材、ツール、モデルのチェックのポイントについてテーマ「買い物について話す」を例に説明します。（資料1）このテーマ「買い物について話す」の教材は表3のような要素から構成されています。

表3 教材を構成する要素

| 教材 ID | 110111802001 |
|---|---|
| テーマ ※表2を参照 | 買い物について話す |
| 対象クラス | 会話 |
| 対象レベル | 0-1 |
| 話題 | 買ったもの、買った場所、値段 |
| ツール | レシート |
| コミュニケーション行動 | レシートを見せながら(ツール)<br>今週何を買ったかを(話題領域)<br>説明する(行動) |
| 教材指示文 | あなたはこの1週間で何を買いましたか。どこで買いましたか。それはいくらでしたか。 |

| | |
|---|---|
| モデル | パン屋でパンを 10 個買いました。サンドイッチとフランスパンと菓子パンを買いました。 |
| コミュニケーション行動を支える言語単位 | 1レベル未満…単語レベル 「パン」「10」または、母語やイラストで伝える<br>1レベル…単語レベル 「パン」「10個」「買う」<br>2レベル…「パンを買いました」「10個買いました」<br>「パン屋で買いました」 |
| 使用する語彙の領域 | 商行為に関わる動詞<br>個数<br>値段 |
| 教室外での活用 | 個数<br>値段 |

教材、ツール、モデルを検討する際のチェックポイントは、以下の通りです。

1) 教材指示文を読むことにより、何を準備すればいいか、何を話せばいいかという方向性が明確に理解できるか。話題が広がりすぎないか。

2) そのテーマについて話したり読んだり書いたりすることが学習者や日本語パートナーにとってリアリティがあるかどうか。

〇リアリティというのは、次の二つの条件を満たすもの

ア) 内容のリアリティ=やりとりしている内容が教室の外の共同体で使われていることばである、と意識できること。

イ) 活動のリアリティ=教室内で日本語パートナーと学習者が行っているやりとりが共同体の構築、人間関係の構築に効果があるものである。

3) 教室活動における学習者と日本語パートナーのやりとりが想定できるか。進行が想定できるか。

4) 対象となる「コミュニケーション行動を支える言語単位」が想定できるか。

5) 「教室外での活用」に繋がるような要素があるか。教室で意識したものを抽象化し、広げられるような可能性があるか。

2)で説明しているリアリティというのは「本物を使う」という意味だけではありません。例えば買い物の場面でおもちゃのお金を使うより現金を使う方が「リアル」ではあるでしょう。しかし、ここで使っているリアリティというのは「ここで話している内容ややりとりが自分の本当の生活、人生を反映している」と感じられることを意味しています。

「とよた日本語学習支援システムの理念」でも書いたように、システムでは参加者が身につけるべき能力を「相互理解のための調整された日本語を使って、ある領域やコンテクストで伝え

手と受け手が協働で共有したい情報や感情を共有する課題を遂行するため能力」だと規定しています。そして、この能力は「伝え手と受け手が実践の場で出会うであろう領域やコンテクストで具体的な課題をこなす中で付随的に習得される」と考えています。下線を引いた「伝え手と受け手が実践の場で出会うであろう領域やコンテクストで具体的な課題をこなす」ことをシステムでは重視しています。一般的な買い物の状況を想定して、そこでのやりとりを練習することも可能だとは思います。しかし「一般的な買い物の状況を想定」ということは「抽象的で架空の状況」を作ることであり、そこで行われる実践は「どこにでもありそうだけど、本当の自分とは直接関係がない」ものになってしまいがちです。ですから、次のようなチェックをしながら本当にリアリティがあるかどうかを検証するようにしています。例えば、「買い物について話す」というテーマでは、次のようにリアリティがあるかどうかを検討しました。

テーマ：買い物について話す

教材指示文：あなたはこの1週間で何を買いましたか。どこで買いましたか。それはいくらでしたか。

1) 指示文の検討

何を準備すればいいか、何を話せばいいかが不明確で拡散する可能性がある。以下の指示文に変更する。

●買い物してもらったレシートをもってきてください。何をいくらで買って、おつりをいくらもらったかを話しましょう。

2)リアリティの検討

自分の買い物のレシートを他人に見せて話す、という行動には「活動のリアリティ」はない。しかし、レシートは学習者が外の世界で行った行為を反映しており、それを使って話すことは「内容のリアリティ」がある。

3) やりとりの検討

a)買い物の時何をしたか話しましょう＝商行為に関わる動詞を言う

b)何をいくらで買ったか話しましょう＝商品名と金額が言える

4) 使用する語彙の領域の検討

・商品名を言う

・金額を言う。

・商行為に関わる動詞を言う

5)「教室外の活用」の可能性の検討

・数値、個数、金額

現在は 50 の「テーマ」と「コミュニケーション行動」のリストが作成されています。（資料.2）
リストにない「テーマ」を新たに導入する場合は、上記のような項目を検討し、教材を作成します。

## ④ 第１回

第１回目では、事前説明会を行います。その中で、自己紹介の教室活動をします。第1回の教室活動には「教室を一つの実践共同体(＝コミュニティ)にする」という目的があります。システムでは二人以上の人間が何らかの関係を持てばその関係を「社会」だと考えています。教室に最初に来たときには学習者も日本語パートナーもお互いに名前も国籍も家族構成も知らないかもしれません。最初はみんな他人です。しかし、ペアになった二人がお互いに名前や国籍などを教え合い、関係を作ることで他人から知り合いになります。その二人の関係をシステムでは最小限の「社会＝コミュニティ」だと考えています。システムは、二人で作った社会をより深いものにしていくこと、そして二人の関係が三人、四人の関係へ広がり、そしてそれが教室全体、地域や企業内へ広がっていくことが多文化共生社会の基礎になると考えています。ですから第1回の教室では最初に「初対面の相手に簡単な自己紹介をする(名前・国・出身地・職場・住まいなど)」を取り上げるようにします。参加者がお互いに自分のことを紹介したり相手のことを聞いたりすることを通して、教室を一つの社会にすることができると考えているからです。同時にこのテーマを取り上げることで、参加者に教室活動の進め方も理解してもらいます。具体的な教室活動の進め方に関しては「8. 会話クラスの流れ」「9. 読み書きクラスの流れ」を参照してください。

## ⑤ テーマ決定

次に参加者みんなで、教室活動でテーマを決める場合について説明します。テーマ決定に際しては、「テーマ」と「コミュニケーション行動」がリスト（資料3）になったものを準備します。このリストには、最後に自由にテーマやコミュニケーション行動が記入できるような空欄も設けておきます。学習者や日本語パートナーが教室で取り上げたいテーマがあればそれも選択肢に加えます。次に学習者と日本語パートナーがやりとりをしながら、教室で取り上げたいテーマを複数選びます。そして、選ばれたテーマの中から、多くの人が選んだテーマをクラスのテーマとします。この活動を行うことで、参加者がお互いにどんなテーマに興味があるのかを知ることができます。また自分たちで選んだテーマが教室活動で取り上げられることは、学習に対する動機を高め、また伝えたい内容を活性化することにもつながり、学習効果も高めることができます。

## ⑥ 成果報告会の検討

ここでは成果報告会の形式、内容の検討とその準備について説明します。

とよた日本語学習支援システムは、多文化共生社会の実現を目指して、市内に在住、在勤の外国人の皆さんが地域社会で日常生活を営むために最低限必要な日本語能力を習得できる仕組みを提供することを目的としています。つまり、「多文化共生社会の実現」と「学習者の日本語能力の向上」という二つの目的があります。ですから、成果というのは、学習者の日本語能力の向上を示すこと、もう一つには教室の存在や活動内容を地域内や企業内で知ってもらい、そしてその教室が企業を含む地域コミュニティの維持、向上に役立っていることを理解してもらうことの二つが考えられます。

システムではそれら二つの成果を示す方法として「情報発信型」、「巻き込み型」、「参加型」の型を考えています。これらの三つの型は便宜的に分けたもので、重なっている部分もたくさんありますし、二つの型を合わせた方法もありえます。「情報発信型」とは教室に関わる情報を地域内や企業内に発信するための成果物を教室活動を通して作りあげる方法です。「巻き込み型」とは地域住民や企業従業員を巻き込んだイベントを企画し、教室活動を通してその準備を行う方法です。最後の「参加型」とは地域や企業で行われる行事やイベントに参加するための準備を 10 回の教室活動で行う方法のことです。

最終回の成果報告の形式と内容を、いつ、どうやって決定するかは、何期目の教室か、「読み書きクラス」だけ開講か、「会話クラス」だけ開講か、「読み書きクラス」と「会話クラス」が併設されているのかなどの諸条件を検討した上で教室を担当するプログラム・コーディネーター会議で決定します。

「会話クラス」だけ開講している場合は次のような成果報告会の形式と内容が考えられます。「会話クラス」に参加する学習者は会話能力が0～1レベルの人たちです。まだ自分たちが日本語でどんな成果報告ができるのか、また日本語で具体的にどんな内容が話せるのかを想像することは困難です。また、想像できたとしても、それを日本語パートナーとのやり取りを通してクラスで一つの形式と内容にまとめていくことは難しいです。ですから成果報告会では教室活動で取り上げたテーマの中からもう一度みんなの前で発表したいテーマやぜひみんなに伝えたいテーマを詳しく紹介したり、いくつかのテーマを組み合わせた内容をポスターセッションのような形で発表したりします。

一方「読み書きクラス」に参加する学習者は会話能力が2レベル以上の人たちです。ある程度自分たちが日本語でどんな成果報告ができるのか、また日本語で具体的にどんな内容が話せるのかを想像することが可能です。ですから教室活動を通して成果報告の内容を検討し

準備することも可能です。例えば、第一回の教室活動でプログラム・コーディネーターが学習者や日本語パートナーに「なぜ日本語教室へ来たのか」、「今、日本語でどんなことに困っているのか」、「この教室で何ができるようになりたいのか」、「そのために教室ではどんな活動をすればいいか」などの問いかけを行い話し合いを行います。考える材料として成果報告の形式や内容の例を紹介してもいいと思います。ある教室では次のような例を示しました。

- 教室報告や学習者、日本語パートナー募集を載せた教室便りを作成しそれを回覧板 や広報に掲載してもらう。
- イベントを計画し、周知、実施、運営する。または自治区の夏祭りなどイベントに参加する。
- 外国人のための入居案内、住宅案内を作成する。
- 学習発表会、子ども発表会に参加し母国の文化紹介を行う。

そして「読み書きクラスの成果」としてどんな形式や内容が考えられるかを決定します。そしてその成果を示すためにどんなテーマで教室活動を行えばいいかを話し合い決定します。

例えば「教室の成果を自治区の役員に伝える」という成果報告会を実施するために第2回から第8回までにどんなテーマで教室活動を行えばいいかは事前に準備したテーマからは選択することができませんでした。そのような場合には、次のように成果報告会の内容を話し合い、第2回から第8回までに何を話せばこの成果報告会が実施できるかを相談します。

例)「教室の成果を自治区の役員に伝える」

1) 外国人がその地区に住んでいて感じていることを「書面」で伝える機会とする。
2) 伝えることは箇条書きでもかまわない。それを見てもらい、口頭で伝える場面とする。
3) 今後その地区で日本人と外国人が共生していくために、教室は何ができるかを区長さんと話し合う場とする。そしてその内容を自治区役員申し送り事項としてもらえるようお願いする。

それ以外にも、次のような成果報告会と準備もこれまでに行われてきました。

例)「教室便りを作成する」

1) 配布先や読む人を考える。
2) 教室便りの記事の内容を検討し、誰が何を書くかを決める。
3) 教室便りの記事を書く。
4) 教室便りを掲示板や住居郵便受けに配布してもいいかどうかを区長等に許可を得る。
5) 教室便りを掲示したり配布したりして、教室報告や学習者、日本語パートナー募集を

行う。

例)「外国人のための入居案内、住宅案内を作成する」

1) 入居の際に必要な手続き書類を収集する。
2) 入居の際に必要な手続き書類を理解する。
3) 外国人が必要な入居案内、住居説明を選択する。
4) 学習者の母語や簡単な説明に変える。
5) 外国人新規入居者には入居案内、住居案内を配布してもらえるように自治区と交渉する。

例)「団地内の交流会を企画する」

1) 団地内の住民を巻き込むような催し物(ブラジル料理教室等)を考える。
2) 催し物を準備する。そこで、使う日本語を練習する。
3) 催し物への案内状、ポスターを作成する。
4) 地域住民に案内状を配布する。
5) 交流会を実施し、日本語を使って地域住民と交流を行う。

「会話クラス」と「読み書きクラス」が併設されている場合にはどのような形式、内容で成果報告会を行うかは、クラス間の調整が必要となります。このような場合には、できるだけ「読み書きクラス」で地域住民や企業従業員「巻き込み型」の成果報告会を行う方向で話し合いを進めてもらいます。そして、読み書きクラスの学習者が成果報告をするのと一緒に交流会、あるいは会話クラスの発表会の時間を設けてもらい、会話クラスはそこで成果報告を行います。

例えば、「母国の料理のレシピを作成し、料理の作り方を日本語で説明し一緒に料理を作る。」という成果報告会を予定する場合は、会話クラスでもテーマの一つとして「食べもの・食事について話す」を選択し、そのテーマについて発表するというのも一つの方法です。また、料理を一緒に作ってそれを食べながら交流会を行い、そこで会話クラスの学習者は自分が選んだテーマについて発表するという方法もあります。

## ⑦ 第9回(成果報告会の準備)
## ⑧第 10 回(成果報告会)

第9回は成果報告会の準備をします。まず、地域住民や企業従業員を招待したり誘ったりする場合には、広報のためのポスターを作ったり招待状を作ったりします。また、誰がどこに広報用のポスターを貼るのか、ポスターを貼ってもいいかどうかの許可は誰が得るのかなどの役割分担も決定します。これはどのような成果報告会でも共通した準備です。それ以外の準備の仕方は成果報告会の形式や内容によって変わります。ここではいくつか具体例を挙げて説明します。

会話クラスだけの場合は成果報告会はポスターセッション形式の発表会を行います。準備ではポスターを日本語パートナーに手伝ってもらいながら作成します。ポスターができたら、発表の内容を検討し、練習します。

「母国の料理のレシピを作成し、料理の作り方を日本語で説明し一緒に料理を作って食べるパーティーを開く」という成果報告会の場合は、読み書きクラスの学習者は参加者に配るレシピを作成し日本語で説明する練習をします。会話クラスの学習者は今までのテーマの中からパーティーで発表したいテーマ、内容を選び発表の練習をします。

また読み書きクラスだけ開講の場合は「わかりやすい日本語版入居者のしおり」などを作成することが成果となります

そして、第 10 回の成果報告会では、これらの成果を報告する会を実施します。

参考文献

国際交流基金(2010)『JF 日本語教育スタンダード 2010』

『外国語教育 II 追補版 外国語学習、教授、評価のためのヨーロッパ

教育共通参照枠 Common European Framework of Reference for Languages: Learning,

teaching, assessment(吉島茂・大橋里枝(他)(訳・編))朝日出版社

(令和5年3月改訂)

# テーマ05 買い物について話す

Talk about shopping

あなたはこの１週間で何を買いましたか。どこで買いましたか。それはいくらでしたか。
What did you buy in the past week? Where did you buy it? How much did it cost?

下の絵(表・写真)を参考に、話すときに使いたいことばのリスト、絵、写真を準備してください。メモは、母語でかまいません。
Using the diagram (list/photographs) below as an example, prepare a list of words, some pictures and photographs that you can use when you talk. You may prepare your notes in your mother tongue.

Copyright 2020 (c) TOYOTA Nihongo Gakushu-shien System, All Rights Reserved.

とよた日本語学習支援システム　ワークシート　テーマ一覧

| テーマID | テーマ日本語 | 指示文日本語 |
|---|---|---|
| 01 | 初対面の相手に簡単な自己紹介をする | 写真や絵を見せながら、名前、国、出身地、職場、住まいなど簡単な自己紹介を初対面の相手にします。 |
| 02 | 自分の家族・友人・同僚の写真や絵を見せながら紹介する。 | 家族、友人、同僚、恋人の写真や絵を見せながら、その人が誰で、どんな人か、あなたとどんな関係かを簡単に紹介します。 |
| 03 | 自分の出身地を紹介する | 絵や写真などを見せながら、自分の出身地はどこか、どんなところか、何があるのかなどを紹介します。 |
| 04 | 食べもの、食事について話す | 毎日の食事やよく食べるものについて話します。 |
| 05 | 買い物について話す | あなたはこの1週間で何を買いましたか。どこで買いましたか。それはいくらでしたか。 |
| 06 | 持ち物について話す | あなたは出かけるときにどんなものを持って行きますか？何に使いますか？ |
| 07 | この1週間について話す | あなたはこの1週間でどんなことをしましたか？おもしろかったことは何ですか？ |
| 08 | 自分のお気に入りのものを説明する | 自分のお気に入りに物は何か、それを、いつ、どのように手に入れたか、なぜお気に入りなのかを紹介します。 |
| 09 | 自分の趣味について話す | あなたの趣味は何か、どんなことをするのが好きか、よく何をするのかを話します。 |
| 10 | 休みの日に何をするかを話す | 休みの日には、どこに行って何をするかを話します。 |
| 11 | 毎日することについて話す | あなたが毎日欠かさずすることは何ですか。いつ、どれぐらいの時間しますか。 |
| 12 | 自分の好きなスポーツについて話す | あなたはスポーツが好きですか。好きなスポーツや興味があるスポーツを話します。 |
| 13 | 好きな人・あこがれの人について話す | 写真などを見ながら、あなたの好きな人、あこがれの人を紹介しましょう。どんなところが好きですか？ |
| 14 | 旅行の思い出を、絵や写真で紹介する | 旅行の思い出を紹介します。どこに行ったか、いつ行ったか、何をしたのか、思い出を話します。 |
| 15 | 行ってみたい場所について話す | あなたが知っているきれいな場所やこれから行ってみたいところについて話します。 |
| 16 | 行ってみたい場所について話す（2） | あなたが知っているきれいな場所や、これから行ってみたいところについて話します。 |
| 17 | 文化や習慣について話す | あなたが日本へ来て驚いたこと、興味を持ったことがありますか？それは何ですか？どうして驚いたのですか？ |
| 18 | 年中行事について話す | あなたの国や、日本で住んでいるところでは、どんな年中行事がありますか？それは何をしますか？ |
| 19 | 経歴を話す | 今までに、いつ、どこで、どんな仕事（勉強）をしたことがあるかを話します。 |
| 20 | 防災について話す | 災害（地震・台風）が起きた時、どのように行動したらいいか考えます。 |
| 21 | 自分の住まいや職場の絵や写真を見せながら紹介する | 紹介したい場所(住まい、職場、学校)を一つ選んで、そこに何があるか、誰がいるかを写真や絵を見せながら紹介します。 |
| 22 | 最近あったうれしかったことについて話す | 最近あった、うれしかったことを紹介します。 |
| 23 | 健康のために気をつけていることを話す | あなたが健康のために気を付けていること、していることについて話します。 |
| 24 | やめたいこと・やめられないことについて話す | あなたの癖、習慣で、やめたいこと・やめられないことはありますか？どうしてやめたいですか？ |
| 25 | 動物について話す | 動物の写真や絵を持って来てください。好きな動物、嫌いな動物、その理由を話します。 |
| 26 | 遊びについて話す | あなたがする遊びの道具、写真、絵などを持って来てください。いつ、どこで、誰と、どんなふうに遊ぶかを話します。 |
| 27 | 歌やダンスについて話す | あなたのお気に入りの歌やダンスを教えてください。あなたの国で有名な歌やダンスを教えてください。 |
| 28 | 夢について話す | 子どものころや、学生のころの夢について話します。 |
| 29 | 今までの私 | 子どものころの自分、学生のころの自分、仕事をしていたころの自分について話しましょう。 |
| 30 | これからしたいこと | これからやってみたいことは何ですか。それをするために必要なことを聞いたり、調べましょう。 |
| 31 | 地域の行事について話す | 住んでいるところや働いているところには、どんな行事（お祭り、避難訓練、清掃など）がありますか？　いつ、何をしますか？ |
| 32 | 季節について話す | 日本にはどんな季節がありますか。あなたの国はどうですか。あなたの好きな季節、嫌いな季節はいつですか。理由を話します。 |
| 33 | バーベキューについて話す | みんなでバーベキューをしましょう。誰が、何を準備しますか？ |

| | | |
|---|---|---|
| 34 | クリスマス・正月について話す | クリスマス、お正月に、何をするか話します。 |
| 35 | 民族衣装 | あなたの国にはどんな民族衣装がありますか。いつ着ますか。 |
| 36 | ファッションについて話す | あなたの国のファッションと日本のファッションで似ているところ、違っているところを話します。 |
| 37 | お互いの国の娯楽番組や「笑い」の違いについて話す | あなたの国には、どんなテレビ番組がありますか？どんなテレビ番組がおもしろいと思いますか？どこがおもしろいですか？ |
| 38 | お互いの国のジェスチャーや、その感じ方について話す | 今まで見たジェスチャーで違和感を感じたものを話します。どうして違和感を感じましたか。その時どうしましたか。 |
| 39 | ルール・マナーについて話す | マナー(エチケット)や、ルールについて話します。普段の生活の中で、とまどったり、疑問に思うことはありますか？ |
| 40 | 交通機関の利用方法について話す | 日本でどこに行ったか、どんな交通機関を利用して、いくらで、何時間くらいかかったかなどを話します。 |
| 41 | 銀行・郵便局で、何をどのようにするかを話す | 郵便局や銀行などの金融機関のサービスについて話します。窓口で何を読んだり書いたりしますか？ |
| 42 | 病気・病院の情報を交換する | あなたやあなたの家族が今までにかかった病気や、けがについて話します。そのとき、どう対応しましたか？ |
| 43 | 薬について知る | （薬や、薬の箱を見せながら）その薬をどんな時に、どうやって服用するか話します。 |
| 44 | 教室で困っていることを表現する | 教室で話しているときに、どんなことで困りますか？その時、どう表現しますか？ |
| 45 | 日常生活で知りたいこと・困っていることについて相談する | 日常生活（買い物・住まい・近所づきあいなど）で困っていることはありますか？知りたいことはありますか？ |
| 46 | 日常生活で困っていることを話す | 日常生活で困っていることは何ですか？ |
| 47 | 職場・仕事について話す | あなたの職場はどこですか？どんな仕事をしていますか？いいところはなんですか？困っていることはありますか？ |
| 48 | 職場の人に伝えたいこと・聞きたいこと | 職場で、話しかけたかったけれど、話しかけられなかったことはありますか？それはどんな時ですか？どうすればよかったと思いますか。 |
| 49 | ヒヤリ・ハット経験について話す | あなたが、職場や、ほかの場所で感じたヒヤリ・ハットについて話します。 |
| 50 | ホウレンソウ（報告・連絡・相談）のホウ（報告）について話す | 仕事でトラブルが発生したことがありますか。どんな状況でしたか。その時、どのように報告しましたか。 |

© 2020 Toyota Nihongo Gakushu-shien System

# Lista de temas　Português

テーマ選び一覧表　ポルトガル語

Hoje, vão ser decididos os temas das aulas. Escolha 3 temas que você deseja conversar / escrever junto com o instrutor.
Os temas das aulas, serão os temas mais escolhidos pelos alunos.
Se houver algum tema sobre o qual voce deceja conversar / escrever que não conste na lista, cite-os.
Escolha 3 temas que você deceja conversar / escrever, e marque-os.

今日は教室のテーマを選びます。日本語パートナーと一緒に、話したい／書きたいテーマを3つ選んでください。
多くの人が選んだテーマを教室のテーマにします。
ここにないテーマで話したい／書きたいテーマがあれば提案してください。
話したいテーマ／書きたいテーマを3つ選んでチェックをつけてください。

| | | | |
|---|---|---|---|
| tema | 03 | Fale sobre a sua terra natal.<br>自分の出身地を紹介する | |
| Apresente o seu país de origem onde fica, como que é, oque tem, etc. utilizando figuras ou fotografia.<br>絵や写真などを見せながら、自分の出身地はどこか、どんなところか、何があるのかなどを紹介します。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| tema | 42 | Trocando informações sobre doenças e hospitais.<br>病気・病院の情報を交換する | |
| Conversas sobre ferimentos ou doenças que você ou sua família ja teve. Como você responderia.<br>あなたやあなたの家族が今までにかかった病気や、けがについて話します。そのとき、どう対応しましたか？ | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| tema | 23 | Fale sobre os cuidados que toma para manter a saúde.<br>健康のために気をつけていることを話す | |
| Fale sobre os cuidados que toma para a saúde.<br>あなたが健康のために気を付けていること、していることについて話します。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| tema | 05 | Falar sobre compras.<br>買い物について話す | |
| O que você comprou essa semana? Onde comprou? Como você descreveria?<br>あなたはこの1週間で何を買いましたか。どこで買いましたか。それはいくらでしたか。 | | | |

07コースデザイン(資料3)

| | | | |
|---|---|---|---|
| tema | 24 | Falar sobre as coisas que você quer parar ou dificuldades de parar<br>やめたいこと・やめられないことについて話す | |
| Você tem problemas ao falar na sala de aula? Como você descreveria?<br>あなたの癖、習慣で、やめたいこと・やめられないことはありますか？どうしてやめたいですか？ | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| tema | 14 | Mostre as lembranças de uma viagem, através de desenhos e fotos.<br>旅行の思い出を、絵や写真で紹介する | |
| Apresente uma viagem que você fez. Fale sobre as recordações de onde você foi, quando foi, o que fez etc.<br>旅行の思い出を紹介します。どこに行ったか、いつ行ったか、何をしたのか、思い出を話します。 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | |

# 会話クラスの流れ

## ① ウォーミングアップ・内容活性化

前回の記録を見ながら、どのくらい覚えているか話してみます。
今日話すことについて、教材を見ながらメモを作ります。

▼

## ②プログラム・コーディネーターによる モデル提示

その日のテーマに沿った簡単なモデルを提示します。

▼

## ③ 日本語パートナーからのインプット

メモの内容を写真や絵などを使って学習者にわかりやすく伝えます。

▼

## ④ 学習者のアウトプット

自分の言いたいことを日本語で何と言うかを日本語パートナーと話しながら考えます。

## ⑤交流タイム

学習者も日本語パートナーもできるだけ何回も相手を変えながら、伝え合います。

## ⑥ モデル提示 ➔ 交流タイムの繰り返し

１回目に話した内容を少し発展させます。

## ⑦ ミニ発表

学習者も日本語パートナーもみんなの前で、今日話したことを発表します。

## ⑧ポートフォリオ記入・次回のテーマ説明

今日学習した項目で「覚えたいことば・文」をメモします。
その日学習して学んだことを記録します。
次回のテーマを聞いて、準備することを考えます。

## ① ウォーミングアップ・内容活性化

ウォーミングアップでは、前回の記録を見ながら、どのくらい覚えているか話してみます。それから、その日に学習することについて「内容活性化」をします。毎回、教室活動の最後にプログラム・コーディネーターから「次回のテーマ説明」があります。そのときには「テーマに関わる写真や実物を持ってきてください」という指示もあるかもしれません。

「内容活性化」というのは、考えてきたことをことばに変えたり準備してきた写真や実物を見たりしながら、その日の教室活動で取り上げられているテーマについてどんな話がしたいか、そのキーワードをメモする活動です。

例えば「自分の住まいや職場の絵や写真を見せながら紹介する」というテーマでは教材に「紹介したい場所(住まい・職場・学校など)を一つ選んで、そこに何があるか、誰がいるかを写真や絵を見せながら紹介しましょう。」という指示があります。準備した写真や絵を見ながらこの指示に対して自分が話したいことを考えます。日本語で考えられればそれでもいいですし、日本語がわからなければ母語でもかまいません。考えられるだけメモを作ります。

## ② プログラム・コーディネーターによるモデル提示

次に、プログラム・コーディネーターによるモデル提示を行います。

たとえば「自分の住まいや職場の絵や写真を見せながら紹介する」のときには次のようなモデルを提示します。

**モデル例1(学習者0～1レベル　モデル=2レベル)**
はい、じゃ、まずこの写真、見てください。
私のうちです。パソコンがあります。パソコンがあります*。テレビがあります。私がいます。
(*上記のモデル例は実際のモデルを文字にしたものです。わかりやすくするためにこのようにくりかえすこともあります)

このモデル提示の役割は学習者に理解できるインプットを与えることと日本語パートナーが学習者にインプットを与えるときの「調整された日本語」の一例を示すことです。

モデル提示のポイントは「①写真や絵や実物などを使いながら、②学習者も日本語パートナーもある程度興味、関心、知識があり、お互いに共有したくなるような内容を、③学習者が8割ぐらい理解できることばで自然に示す」ことです。

このポイントを順番に説明したいと思います。

まず「①写真や絵や実物などを使いながら」です。どんな写真や絵や実物がいいかというと「紹介したい内容に関わるもので紹介する人の実生活と直結しているもの」で、かつ「学習者の理解を促進するもの」です。家族を紹介するなら自分の家族の写真、家や職場を紹介するなら家の中の写真や職場の写真、買い物について話すならもらったレシートやチラシ、略歴について話すなら履歴書などがその例となります。これらのものを「ツール」と呼ぶことにします。

わざわざ、教室でモデルを行うために、いつも興味のないチラシを準備する必要はありません。自分が実際に使っていて興味があるもの、そして紹介したいものを使います。

次に「②学習者も日本語パートナーもある程度興味、関心、知識があり、お互いに共有したくなるような内容」です。たとえ日本人同士でも全然興味や知識がない内容を読んだり聞いたりして理解するのは難しいものです。「自分の趣味について話す」というテーマであれば「この人はどんな趣味かな」と感じさせること、「自分の住まいや職場の絵や写真を見せながら紹介する」がテーマであれば「この人はどんなところに住んでいるのかな」と興味を持ってもらうことが重要です。また、内容が自分の本当のことでないと単なる「ことばの練習」になって、その後の「生きたことばの使い方」に繋がりません。そういう意味でも①の「写真や絵」は重要な意味を持っています。写真を見るだけで、「楽しそう」「おもしろそう」と感じられるようなものを示すことを心がけてください。

最後に「学習者が8割ぐらい理解できることばで自然に示す」です。「8割理解できることば」というのは単にゆっくり話したりことばを短く切ったりすることではありませんし、ことばだけで8割理解してもらうことは0レベルを対象としている場合非常にむずかしいと思います。ことばで5割は理解でき、残りの3割程度は写真、絵、身振り等々を利用することで8割が達成できるように考えてください。そのためには、聞いている人の興味や知識を想像して、それに合った内容を実際の写真や実物を示しながら伝えることが鍵になります。身の回りのものの名前は説明しようとすると本当に大変です。しかし「実物」を使いながら自然に名前を示すことで多くの身の回りの「ことば」の問題は解決します。

また「学習者が8割ぐらい理解できることば」というのはどういうレベルかというと「今の学習者のレベル＋1レベル」を考えています。下の表を見てください。これは「自分の住まいや職場の絵や写真を見せながら紹介する」ときのレベルの目安を示したものです。

<table>
<tr><th rowspan="2">レベル</th><th colspan="3">コミュニケーション行動</th><th rowspan="2">言語単位</th></tr>
<tr><th>ツール</th><th>話題領域</th><th>行動</th></tr>
<tr><td>1未満</td><td rowspan="4">住まいの<br>写真や絵を<br>見せながら</td><td rowspan="4">自分の住まいに何が<br>あるかを</td><td>(支援的な)質問に答える形で<br>紹介する<br>＊自発的には話せない</td><td>単語レベル<br>(つくえ)</td></tr>
<tr><td>1</td><td>紹介する<br>＊少しは自発的に話せる<br>＊ゆっくり待てば単語レベルで紹介<br>できるようになる</td><td>単語レベル<br>(つくえ)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2</td><td>紹介する<br>＊自発的に話せる<br>(支援的な)紹介を理解する</td><td>2～3 語レベル<br>(これ、つくえね)<br>(つくえ、あるね)*</td></tr>
<tr><td>紹介する<br>＊自発的に話せる<br>(支援的な)紹介を理解する</td><td>文レベル<br>(つくえがあります)*</td></tr>
</table>

(＊上の2レベルは二つに分かれています。言語単位をみると「つくえ、あるね」という段階と「つくえがあります」という段階です。言語的な正確さで見ればこの二つの段階には差があります。ただし、コミュニケーション=意味が伝わるか、という観点から見ればこの二つの段階には差がないと考えます。ですからどちらも2レベルにいれています。「つくえ、あるね」という言語単位を使ってコミュニケーションができる段階があり、その後交流を繰り返すことにより「つくえがあります」という言語単位が使えるようになる、とシステムでは考えています。)

一番左の「レベル」は学習者のレベルを表しています。「コミュニケーション行動」というのは「どのようなツールを使って、どんな話題領域で何ができるようになるか」を表しています。そして、「言語単位」というのは、どんな単位のことばを使って「コミュニケーション行動」ができるようになるかの目安を示しています。

プログラム・コーディネーターのモデル提示では「今の学習者のレベル+1レベル」のものを心がけてください。例えば1レベルの学習者であれば、2レベルの言語単位を使ってモデルを提示します。ただし、表にある「言語単位」だけを使うのではなく、「言語単位」を中心に使いながら、自然なモデルを示すことを心がけてください。

教室の中には1レベルの学習者も0レベルの学習者もいます。そのときに、どちらの言語表現を使えばいいのでしょうか。基本的には1の学習者に合わせていいと思います。0レベルの人にどう対応するかというと顔を見ながら「わかっていないな」と感じたらもう一つ下のレベルのことばに変える、例を示す、などで理解してもらうことも大切です。

次に「自然に」というのは、日本人同士が話すようなスピードと内容で、という意味ではあり

ません。具体例をあげて「自然さ」を考えてみたいと思います。

「自分の住まいや職場の絵や写真を見せながら紹介する」

例えば部屋の写真を紹介するとしても、上から順番に紹介するとか、左から順番に紹介する、ということは「自然」ではないと思います。まず、自分が一番紹介したいものから紹介する、あるいは、一番効果的に紹介できる順番で紹介する、というのが「自然」だと思います。また、写真に写っているものを全部紹介するというのも「自然」ではないかもしれません。中には写真に写っていても指摘しないこともあるでしょう。

「自分の家族・友人・同僚の写真や絵を見せながら話す」

自分の家族を友人に紹介するとき、皆さんは「父」「母」と紹介するでしょうか、「お父さん」「お母さん」と紹介するでしょうか。これは人によって異なると思いますし、誰と話しているかによって異なると思います。システムでは「これを使ってモデルを提示してください」ということは決めません。プログラム・コーディネーターが学習者や日本語パートナーに自分の家族を紹介するとき、自然に出てくるものを使ってください。実際の会話ではいろいろなパターンが出てくる可能性があります。それに慣れ、同時に違いに気づいてもらうことのほうが大切だと考えています。また、家族の職業を紹介するときはどうでしょうか。「会社員です」という紹介だけで終わることはないのではないでしょうか。そういう場合は「〇〇サービスです」という固有名詞や「システムエンジニア」のような職種を述べるほうが「自然」だと思います。普通の会話で「ああ、そうですか」と納得して会話が終わるような内容を伝えることを心がけてください。

「健康のために気をつけていることを話す」

健康のため気をつけている「食生活」について話す場合「(健康のために毎朝)～を食べています」「(健康のために毎朝)～を食べます」のどちらのほうが「自然」でしょうか。「～を食べています」のほうが自然だと考える人でも、「食べて」は活用があって大変だから、わかりやすい形式としては「食べます」をモデルでは選ぶことも多いと思います。ただし、モデル提示で重視していただきたいのは「健康のために気をつけていることを話す」という流れの中で、何が「自然」かということです。学習者がことばを覚えるときにはことばの形や音だけを覚えるのではありません。話している人の表情や声色や話の流れも一緒に覚えるのです。ですから「健康のために気をつけていることを話す」という流れの中で「～を食べています」のほうが自然であれば、それを一緒に覚えてもらった方がより役立つ知識を与えていることになります。別のテーマの時には「～を食べます」のほうが自然な場合もあるでしょう。そのときには

「～を食べます」を使ってもかまいません。その差に学習者が気づいてくれることが大切なのです。

大切なことは「関係を深めたい相手と話すときに適切な内容は何か」をよく考えることです。まず「今日のテーマについて〇〇さんとならこんな話がしたいな」という適切な内容を考えて、次にその内容を0レベルや1レベルの学習者が理解できるような形に変える、という手順でモデルを考えてみてください。

## ③ 日本語パートナーからのインプット

次に、日本語パートナーから学習者に対してインプットを与える時間をとります。このインプットのポイントもモデルと同様「①写真や絵や実物などを使いながら、②学習者も日本語パートナーもある程度興味、関心、知識があり、お互いに共有したくなるような内容を、③学習者が8割ぐらい理解できることばで自然に示す」ことです。同じテーマですが、人によって話す内容は異なります。使われることばも違うでしょう。類似してはいるが少し異なる内容を繰り返し得ることが学習者の言語習得には有効です。

最初は、プログラム・コーディネーターのモデルをまねしながら日本語パートナーが一人ずつインプットを行うことも可能だと思います。プログラム・コーディネーターは、日本語パートナーのインプットを聞くと同時に、学習者の表情をよく観察します。学習者が理解していないようであれば、プログラム・コーディネーターは理解しやすい表現を使って言い換えたり意味を確認したりします。プログラム・コーディネーターと日本語パートナーのやりとりがそのまま学習者にとっては「理解できるインプット」に繋がります。同時に日本語パートナーにとっても「学習者にとって調整された日本語とはどのような日本語か」を考える機会にもなります。

## ④ 学習者のアウトプット

「学習者のアウトプット」とは、学習者が日本語パートナーとやりとりしながら、自分が表現したい内容はどう言えばいいかの材料を集めて表現してみる時間です。①の「内容活性化」で学習者も自分が伝えたい内容のメモができているはずです。それを日本語に変えていきます。このときにも学習者が持ってきてくれた「写真や実物」は非常に重要です。実生活で使っているものを示すことは辞書を引くよりも「伝えたいことを伝えられる表現」を身につけるためには効果があります。

ここでプログラム・コーディネーター、日本語パートナーに期待される役割とは「学習者のレベルに合った日本語を紹介してあげる」ことと、「学習者が話す機会を作り、話された表現が適

切かどうか、理解できるかどうかを示す」ことです。「学習者のレベルに合った日本語を示す」とは今の学習者のレベル＋1の表現を示してあげることです。全く日本語ができない学習者にとっては、3つ、4つの単語を駆使してやり取りすることさえ大変なことです。その人に3文、4文の「正しい文」を示してもその時間内に使えるようにはなりません。まず3つ、4つの単語を使いこなせるようになることが大切です。ですから、紹介する日本語は「今の学習者のレベル＋1レベル」となるように注意します。また、紹介された日本語を理解することと、その日本語を使って伝えることとは次元が違います。理解した日本語を使って、自分が伝えたい内容を相手に伝えるためには、やはり「練習」が必要です。一つ表現を紹介してあげたらそれを「話してみて」と促す、そして「話した」内容が適切なら適切だというコメントを返し、不適切な場合はもう一度適切な表現を示してあげる、などの対応が求められます。

## ⑤ 交流タイム

次に、④で集めた表現を実際に多くの人に伝える「交流タイム」の時間です。例えば次のような方法が考えられます。

| | |
|---|---|
| 1) ペアになる。5～6分時間を取り、その間に、一人の人が向かい合っている人に、その日のテーマについて紹介しあう。<br>2) 終わったら、今度はペアを変える。 | |

ここでプログラム・コーディネーターや日本語パートナーに求められることは「よく待ち、よく聴き、少し訊く」ことです。一つの単語であっても、実際にそれを口から出そうと思えば時間がかかるものです。一生懸命、口に出そう、思い出そうとしているときに「これが言いたいの、このこと？」などと訊かないようにしてください。自分の力で思い出し、自分の力で口に出せれば記憶としても強く残ります。

また学習者が話しているときには「積極的に聴く」「能動的に聴く」ようにしてください。これは傾聴とも呼ばれます。よい聞き手があってこそ、よい話し手が生まれます。「この人は私の話を我慢強く興味を持って聴いてくれる」と感じさせる聴き方を心がけてください。

そして、話をあまり広げすぎないことも重要です。インプットと同様、アウトプットも繰り返しが重要です。新しい情報が必要になることを訊くのではなく、「話した内容＋α」、つまり「α」を言うために、もう一度同じ話をしなければならないようなことを訊くようにしてください。

## ⑥ モデル提示 → 交流タイムの繰り返し

②～⑤の流れをもう一度繰り返します。「自分の住まいや職場の絵や写真を見せながら紹介する」というテーマで言えば、最初の②～⑤で「何がありますか。誰がいますか。」を話し、この繰り返しの段階で「どこにありますか。」「どこにいますか。」など、話題を加えます。

モデル例1(0～1レベル)

はい、見てください。本があります。本があります。棚の中に本があります。冷蔵庫があります。冷蔵庫の中に、ビールがあります。冷蔵庫の隣に電子レンジがあります。…棚の上にファイルがあります。いいですか。では、みなさん、机の上に?机の上にカップがあります。棚の上にファイルがあります。いいですか?机の上にカップがあります。机の上に本があります。

モデル例2(0～1レベル)

机の上に本があります。テレビの横に、テレビの右に写真があります。えーと、本の左に、本の右にコップがあります。

最初の②～⑤で満足に言えない学習者もいるでしょう。その学習者は「何がありますか。誰がいますか。」を繰り返し行う、または「何がありますか。誰がいますか。」を広げるだけでもかまわないと思います。

## ⑦ ミニ発表

②～⑤の流れを何度か繰り返した後で、学習者と日本語パートナーがその日の成果をみんなの前で披露し、達成感を感じてもらうために「ミニ発表」をします。人によって大勢の前で話すのがいやだ、という人もいるかもしれません。実際の活動の形式は、学習者や日本語パートナーのメンバーを見ながら決めてください。大切なことは、今日教室に来たことで自分は何が出来るようになったか、を自分で確認すると共に他の人にも理解してもらうことです。ここでは日本語パートナーにも発表をしてもらいます。日本語パートナーの目標としても「学習者の興味、知識に合わせてわかりやすく話す」ことが求められます。

また、このミニ発表をビデオなどで記録を取れば、ポートフォリオの一部として活用することもできます。

## ⑧ ポートフォリオ記入・次回のテーマ説明

最後に、ポートフォリオの記入、次回のテーマ説明を行います。

ミニ発表が終わったらプログラム・コーディネーターはポートフォリオを配布します。まず、その日に話したことで次回の教室までに「覚えたいことばや覚えたい文を選んでください」という指示を出します。「覚えたいことば」や「覚えたい文」が選べたらポートフォリオの左側に日本語で「覚えたいことば」や「覚えたい文」を書きます。もう片側には「覚えたいことば」や「覚えたい文」の翻訳や思い出すためのメモを書きます。ポートフォリオの詳細については「10.教室の継続的改善に向けて」の「ポートフォリオ」で解説します。

ポートフォリオの記入が終わったら、最後にプログラム・コーディネーターが「次回のテーマ説明」をします。次回のテーマを紹介し、どんな準備をしてくればいいかの指示を出します。教室に来るまでの間に「こんなことを書きたい」「これはぜひ話したい」と考えられるような指示を出してください。効果を引き出すためには、できるだけ「テーマに関わる写真や実物を持ってきてください」という指示を出しましょう。なぜかというと写真や実物を選ぶ段階で「紹介したいもの、見せたいもの」を選択しているからです。選ばれた写真には「紹介したいもの、見せたいもの」がたくさん入っているはずです。それを見て、何を紹介するかを考えることで、内容は既に活性化されていると考えてもいいでしょう。

(令和5年3月改訂)

# 読み書きクラスの流れ

## ①ウォーミングアップ

前回の教室で参加者が書いたものを読んだり、宿題で選んだことばや文を板書してみます。そして、板書したことばや文を一緒に読んでみます。

▼

## ②プログラム・コーディネーターによるモデル提示

その日のテーマに沿ってプログラム・コーディネーターがモデル提示をします。

▼

## ③読み聞かせを聞く・読んでみる

モデル提示に沿って書かれた簡単な文（読み物）を日本語パートナーに読んでもらい、その後で学習者も音読してみます。

▼

## ④学習者と日本語パートナーとのやりとり

学習者と日本語パートナーとのやりとりを通して、その日の活動のテーマについて自分の伝えたいことは何か、それを日本語で表現するためにはどんな材料(語や文など)が必要かを考え日本語でメモを作ります。

▼

## ⑤学習者のアウトプット

④のやりとりを通して作ったメモを参考にしながら、自分が伝えたいことを用紙に清書します。

## ⑥交流タイム

伝えたいことを書き写した用紙を壁やホワイトボードに貼りだします。そこに書いてあることを読んでみたり、わからないところ、おもしろいところを日本語パートナーと話し合ったりします。

## ⑦宿題・ポートフォリオ記入・次回のテーマ説明

今日学習した項目で「覚えたいことば・文」を書きます。それを覚えて来ることが宿題です。
その日学習して学んだことを記録します。
次回のテーマを聞いて、準備することを考えます。

## ①ウォーミングアップ

ウォーミングアップでは、前回に出席したときに参加者が書いたものを読んだり宿題の確認をしたりします。

**宿題の確認**

毎回、教室の最後には宿題を決めます。プログラム・コーディネーターが指示を出し、学習者は宿題で書けるようになったことを板書します。みんなが書き終わったら、それを書いた本人がもう一度声に出して板書を読みます。宿題に関しては「⑦宿題」で詳しく説明します。

## ②プログラム・コーディネーターによるモデル提示

次に、プログラム・コーディネーターによるモデル提示を行います。読み書きクラスの学習者は会話レベル 2 以上ですが、ポイントは基本的に会話クラスと同じです。

（8. 会話クラスの流れ ②プログラム・コーディネーターによるモデル提示参照）

## ③読み聞かせを聞く・読んでみる

モデル提示後、プログラム・コーディネーターはモデル提示で話したことを文に書いたものを「読み物」として学習者に配布します。日本語パートナーはその読み物を学習者に読み聞かせます。読み聞かせるときには、必要に応じて文字を指で追ったりして文字と音の対応がわかりやすくなるように工夫します。学習者は読み物の文字を目で追いながら読み聞かせを聞きます。日本語パートナーは学習者の顔を見て理解を確認しながら何回か読み聞かせを行います。

「読み聞かせ」するときには「自然に」読むように心がけてください。「自然に」というのは普通のスピードで、という意味ではありません。「きのうは」という文があったとしたら、「き・の・う・は」と文字ごとで区切らない、また「きのう・は」と助詞で区切らない、「キノウ」と文字通り読むのではなく、「キノー」と実際に読んでいる音で読むことを心がけてください。

学習者が読み物の文字、意味、どこで区切るかを理解したと感じたら、今度は学習者にその文を読んでもらいます。この活動の目的は「今日はこのテーマについて話して、書けるようになるんだな」という動機を高めることと「文字と意味を結びつける」ことです。すらすら読めるようになることを目指したものではありません。聞いてわかっていたのに、いざ読もうとすると、なかなか読めなかったり読み間違えたりすることはよくあることです。ここではすぐに正しい読み方を示したり訂正したりするのではなく、試行錯誤しながら少しずつ文字と意味が結びつけられるまで待ってください。

また、学習者の「書くことの動機」を高めるために、プログラム・コーディネーターは「読み物」

を作成する際、「作文するときのひな形になるようなもの」を心がけてください。「作文するときのひな形になるようなもの」とは、文があまり複雑ではなく、ことばを入れ替えれば自分が伝えたい内容が作りやすそうなものです。例えば「きのう、〇〇へ〇〇に行きました」という文は、〇〇の部分を言い換えれば誰にでも応用できそうな文です。学習者が理解しやすく、ことばの入れ替えがいろいろできそうな読み物を作成するようにしてください。

「読み物」は仮名だけの文、漢字交じりの文、手書きの文の 3 種類の文を掲載し、学習者には自分のレベルに合ったものを読んでもらいます。

## ④学習者と日本語パートナーとのやりとり

学習者の読む練習が一段落したら、学習者と日本語パートナーはやりとりに入ります。このやりとりを通して、学習者はその日の活動のテーマについて自分の伝えたいことは何か、それを日本語で表現するためにはどんな材料(文字、語など)が必要かを考え日本語でメモを作ります。読み書きクラスに来る学習者は会話レベル2レベル以上の学習者です。ですから、日本語パートナーが「わかりやすい日本語」を使えば、自分自身や身の回りのことについては日本語で表現できます。まず、その日のテーマについて学習者が伝えたい内容を引き出すような交流を行ってください。そしてやりとりの中で、学習者が目を輝かせながら「きのう、伊勢に釣りに行って黒鯛を釣った」と言ったとしたら、その文が書けるようになりたいかを日本語パートナーは確認します。まず「文」にするためのキーワードになることばが書けるかどうか確認してください。最初から「きのう、伊勢につりに行って黒鯛を釣りました」という文を書くのではなく、「きのう」「伊勢」「つり」「黒鯛」などのことばが書けるかどうかを聞き、学習者に書いてもらいます。ひらがなで問題なく書ける人なら漢字を紹介したりします。ひらがなやカタカナがまだ書けない人に対しては五十音表を見ながら文字を書いていき、正しい単語を書けるように日本語パートナーはサポートします。ここでも最初から正しい書き方を示すのではなく、試行錯誤しながら自分の伝えたいことと文字を少しずつ結びつける機会を与えるようにしてください。

## ⑤学習者のアウトプット

学習者が伝えたい内容を伝えるためのメモがある程度できあがった段階で、プログラム・コーディネーターは次の段階に入る合図を出します。この段階では、④のやりとりを通して作ったメモを参考にしながら、自分が伝えたいことを用紙に清書します。清書は2種類あります。一つは罫線が引かれた用紙への清書、もう一つは掲示物の作成です。

**用紙への清書**

罫線が引かれた用紙への清書の目的はメモを見ながら文を書くことにより、意識的に「文字」と「文法」の知識の整理をすることです。つまり、これは自分の知識の整理のための清書です。

日本語パートナーは「きのう」「伊勢」「つり」「黒鯛」というメモを指さしながら、「これ、文で書いてみようか」と学習者を励ましてあげてください。ここで学習者は「意識的に文を作る」ことを経験します。自分が伝えたい内容を伝えるためには「伊勢に」「伊勢で」「伊勢へ」のどれがいいかで迷うかもしれません。以前「ディズニーでこの写真をとりました」と書いたので、「伊勢で」のほうがいいかもしれないと思うかもしれませんし、「伊勢に行った」でも「伊勢へ行った」でもどちらでもいいよ、と言われた記憶があるので、全部大丈夫だと思うかもしれません。システムでは試行錯誤をしながら少しずつ自分なりの規則を身につけていくことが文法の知識を身につけることだと考えています。大切なのは「自分が書きたい内容を伝えるのに適切な形は何かを理解する」ことです。最初から「に」「で」「へ」の説明をして練習をしても「使える知識」にはなりません。簡単な説明だけでは説明しきれないことが多すぎるからです。それならば「今日自分は～ということを書きたいと思った。そのときに『で』か『に』で迷った。そしてこの内容のときは『に』しか使えないと言われた」などのような自分が言いたいことと直接関係がある文法の規則を積み上げていくことが大切なのではないでしょうか。

また、形が似ている文字の書き分けもここで整理します。たとえば「す」と「お」はどこが違うのかは日本人であれば当たり前かもしれませんが、学習者にとっては難しい書き分けです。特にカタカナは類似した文字が多いので、どこが違うのかを意識しながら書くのは非常に大切です。

ここで、日本語パートナーが果たす役割は学習者が書いた文が適切かどうかを判断する審判のようなものだと考えてください。プログラム・コーディネーターは学習者と日本語パートナーのやりとりを観察しながら、学習者が迷っている表現や表記法、文法などの規則などを集めて記録するようにしてください。類似したものがいくつか集まったら、それを教室の1回のテーマとして設定することも可能です。その場合でも、実際に学習者が迷った表現を取り上げ、今迷っているかどうか、どう理解したかを学習者同士、母語で説明してもらってもかまわないと思います。ここでも大切なのは「正しい規則」を身につけるのではなく「適切に使える規則」を見つけることです。また、プログラム・コーディネーターは学習者に対して自習用の教材を紹介したり、コースデザイン会議の議題として取り上げ「適切に使える規則」を見つける教材のあり方も検討する必要があります。

**掲示物の作成**

ある程度罫線が引かれた用紙に文が書けたら、プログラム・コーディネーターが「そろそろ大きい紙に清書してください。」と合図を出します。学習者は日本語パートナーと相談しながら用紙に書いた文の中から他の人に読んでもらいたい文をいくつか選んで大きく清書し掲示物を作ります。用紙に書くのが「自分の知識の整理」のためだったのに対して、この清書は「他人に読んでもらい、文字を通して自分の伝えたいことを伝える」ための清書になります。ですから教室に参加している人が興味や関心がありそうな内容を、理解できる形で書くことが求められます。日本語パートナーにも掲示物は作ってもらいます。その目的は「今の学習者のレベル＋1レベル」、つまり「今向き合っている学習者が読んで8割ぐらい理解できるインプットはどの程度のものか」を考えるきっかけを与えることにあります。全部ひらがなで書いても伝わらないかもしれませんし、漢字が混じったらもっとわからないかもしれません。学習者に理解してもらえない原因は文字以外にもことばの使い方、文の長さ、読み手の興味や関心や知識を考慮しているか、などいろいろ考えられます。日本語パートナーの皆さんにも試行錯誤しながら外国人の人にもわかりやすいことばを少しずつ身につけてもらいたいと考えています。

## ⑥交流タイム

掲示物ができあがったら、それを壁やホワイトボードに貼りだします。みんなで立ち上がってその掲示物の前に立ち、そこに書いてあることを読んでみたり、わからないところ、おもしろいところを日本語パートナーと話し合ったりします。この交流の目的は、1)同じテーマについて書かれていて、かつ、いろいろなバリエーションがある内容を読む機会を学習者に与えること、2)文字を使って伝えたいことを伝えるにはどんな内容をどんな順番で書けばわかりやすいかというポイントに気づくこと、3)わからない語や文、わかりにくい掲示物について質問したり説明したりすることで新しいインプットやアウトプットの機会を得ることです。この交流の進め方は掲示物の内容、学習者のレベルに応じてさまざまな方法がありますが、一つ代表的な進め方を紹介します。

学習者と日本語パートナーがペアになったりグループになったりします。まず一つの掲示物の前に立ち学習者がそれを読んでみます。すらすら読めて内容も理解できれば次の掲示物に移ってもかまいません。しかし、読める文字が少ない、文字は分かるが区切り方がわからないなどの原因で理解できない場合は日本語パートナーが③の読み聞かせのように、文字、語、区切りの単位が理解できるように読み聞かせてあげてもかまいません。文字はわかるが単語を知らないなどの原因で読めない場合もあります。④のやりとりのように日本語パートナーが「わかりやすい日本語」を使って説明してあげればインプットの増加にも繋がります。さらに、文の意味はわかっても、その文を理解するための背景知識が足りなかったり前後の流れがないのでわか

らないということもあるでしょう。そのときにはその掲示物を書いた人に直接聞いてみてもいいと思います。掲示物を書いた人にとっては文を理解してもらうためには、どんな順番でどんな情報を入れた方がいいかを知る機会にもなります。

## ⑦宿題・ポートフォリオ記入・次回のテーマ説明

教室の活動の最後に宿題、ポートフォリオ記入、次回のテーマ説明を行います。

交流タイムで、学習者や日本語パートナーが掲示物をだいたい読み終わったら、プログラム・コーディネーターは交流タイム終了の合図を出します。そして、席に戻り、今日書いたことや読んだことの中で強く印象に残ったことやよく覚えていることをパートナーに話してもらいます。一番印象に残ったことや一番よく覚えていることはことばや表現以外の内容でもかまいません。「〇〇さんの趣味が魚釣りだということは知りませんでした。掲示物を読んで初めて知りました。」という感想でもかまいません。強く印象に残ったものは、覚えやすく、かつ忘れにくい内容です。1日の活動を振り返り、その日に強く印象に残ったものを頭の中に引き出すことで、学習者の記憶は強化されると考えられます。

ある程度、強く印象に残ったことやよく覚えていることが話せたと判断したら、プログラム・コーディネーターは宿題の指示を出します。読み書きクラスの宿題は、今日学習した項目の中で「特に覚えたいことばや文」を選び、それを次回の教室までに覚えてくる、というものです。まず、学習者が今日話したり、読み書きした内容の中から特に覚えたいことばや文を選びます。次に日本語パートナーがその書き方のお手本を用紙に書きます。学習者はそのお手本を見ながら次回のクラスまでにそのことばや文が書けるようになるまで練習してきます。

宿題のお手本が書けたら、次にポートフォリオの記入をします。ポートフォリオの詳細については「10.教室の継続的改善に向けて」の「ポートフォリオ」で解説します。

ポートフォリオの記入が終わったら、最後にプログラム・コーディネーターが「次回のテーマ説明」をします。次回のテーマを紹介し、どんな準備をしてくればいいかの指示を出します。教室に来るまでの間に「こんなことを書きたい」「これはぜひ読みたい」と考えられるような指示を出してください。効果を引き出すためには、できるだけ「テーマに関わる写真や実物を持ってきてください」という指示を出しましょう。なぜかというと写真や実物を選ぶ段階で「紹介したいもの、見せたいもの」を選択しているからです。選ばれた写真には「紹介したいもの、見せたいもの」がたくさん入っているはずです。それを見て、何を紹介するかを考えることで、内容は既に活性化されていると考えてもいいでしょう。

(令和5年3月改訂)